

二〇一一年六月一四日

原発の危険に反対する鹿児島県連絡会

代表 井上 森雄

鹿児島県薩摩川内市平佐町二九七三―一

〇九九六―二三―三九〇八

鹿児島県議会議長

金子 万寿夫 殿

原発からの撤退を決断し、「5〜10年以内に原発ゼロ」のプログラムを
策定すること等を求める意見書を政府に提出することを求める陳情書

【陳情の趣旨】

福島第1原発の事故は、原発の危険性を国民の前に事実をもつて明らかにしました。

現在の原発技術は本質的に未完成で、きわめて危険なものです。原発は膨大な放射性物質（死の灰）をかかえています。それをどんな事態が起きても閉じ込めておく完全な技術は存在しません。そして、ひとたび大量の放射性物質が放出されれば、被害は深刻かつ広範囲で、将来にわたっても影響を及ぼします。

そうした原発を、世界有数の地震・津波国であるわが国に、集中的に建設することは危険きわまりないことです。日本に立地している原発で、大地震・津波にみまわれる可能性がないと断言できるものは一つもありません。

歴代政府が、「安全神話」にしがみつき、繰り返し警告を無視して安全対策をとらなかつたことが、どんな結果をもたらすかを福島原発事故は明らかにしました。また、原子力安全・保安院は、原発を推進している経済産業省の一部門であり、原発を独自の立場からチェックして安全を確保する役割を果たせないことも明瞭となりました。

いまこそ、日本のエネルギーを原発に依存するという政策から撤退し、「原発ゼロの日本」をめざす政治的決断をおこない、同時並行で自然エネルギー（再生可能エネルギー）の本格的導入と、低エネルギー社会にむけて、国をあげてとりくむ時です。また、原子力の安全確保のための規制機関は、推進の行政機関と明確に分離し、独立した存在として設立することが必要です。

以上の趣旨にもとづき、鹿児島県議会として、左記の項目について、政府に意見書を提出されるよう陳情いたします。

【陳情項目】

1、政府が原発からの撤退を決断し、「5〜10年以内に原発ゼロ」のプログラムを策定すること。

2、安全最優先の権限と責任をもち、推進機関から完全に分離・独立した規制機関を緊急に設立すること。

以上